

## スクラム

Vol.76

2024 秋

## 《消化器内科 2024 年》

診療部 副部長 兼 消化器内科長 大石 尚毅

今年の4月から消化器内科の診察室は外科診察室の隣へ移動しました。消化器内科医師および外科医師の関係がより密接となり、お互いが連携して患者さんの診療にあたっています。

消化管の癌に対しては、これまで早期胃癌に対して行っていた内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を早期食道癌や早期大腸癌に対しても導入し、積極的に治療にあたっています。最近食道癌や大腸癌は増加傾向となっており、早期発見、早期治療が良好な予後を得るために重要となっています。

また、外科の曾我医師と協力し胃粘膜下腫瘍に対しての腹腔鏡内視鏡合同胃局所切除術（LECS）を行っています。胃粘膜下腫瘍には、消化管間葉系腫瘍といわれる GIST、平滑筋腫、神経鞘腫などの疾患がありますが、術前に GIST と診断された腫瘍や、すでに大きくなっている腫瘍が治療の対象となります。癌と異なり、リンパ節転移の可能性が少ない特徴がある腫瘍に対して行っています。この手術の大きな特徴は、腹腔鏡手術の際に、上部消化管内視鏡を併用することで胃の内側から腫瘍の切除範囲を正確に見極めることができる点です。この手法を用いることにより胃壁の切除を最小限にとどめることができるため、可能な限り胃を大きく残すことができます。胆膵領域の癌は、通常の間ドックでは発見が難しく、症状があった時にはがんが進行している場合が多いと言われております。食生活が不規則な方、糖尿病を発症または悪化した方、喫煙や飲酒歴のある方、食欲がなく体重減少を認める方などに対して早い段階で MRCP や超音波内視鏡検査（EUS）を行い早期発見に努めています。

これからも消化器内科・外科医師が連携して地域住民の方々の癌の克服を目指し頑張っていきます。当科では上部消化管内視鏡検査、全大腸内視鏡検査、超音波内視鏡検査など必要な検査を、できるだけ待たずに受けることができるよう心がけています。紹介が必要か判断に困る症例でも構いません。消化管および肝胆膵領域の精査が必要と思われる症例がございましたら是非当科での検査をご検討ください。



# 《当院における消化器病センター開設に関しまして》

外科 科長 曾我 真伍

当院では消化器疾患の診療連携を高めるため、2024年より消化器内科と消化器外科の外来診察室を統合し、運営を開始しております。このセンター化により消化器病疾患に対して迅速かつ効率的に対応し、患者様に満足して頂ける医療を行っていく方針です。

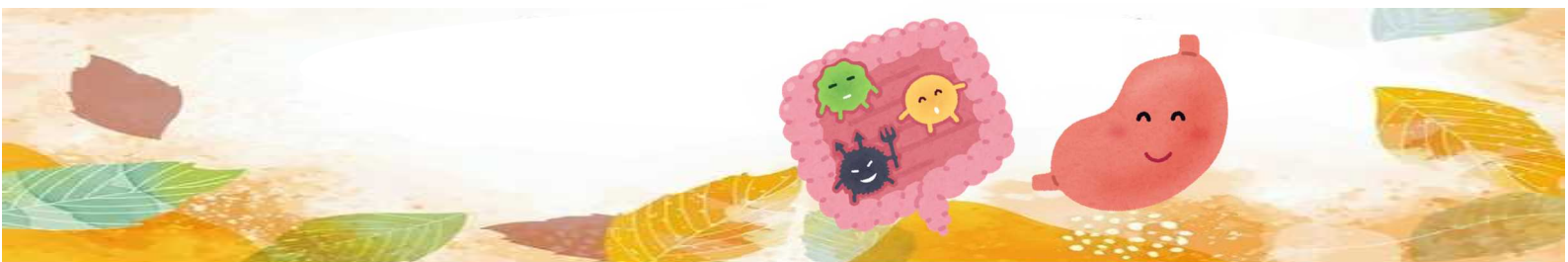
消化器疾患の中でも、内科と外科で連携すべき頻度の高い領域は、胆石症です。特に胆嚢内結石の落石による胆管炎は、結果的に胆嚢炎も併発しており、ガイドラインに沿った治療が望まれます。

通常は胆管炎の方が膵炎も合併するなど急速に重篤化する可能性があるために、内視鏡による採石術が優先されます。その後、外科にて待機的に腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行する流れが一般的です。

便秘や下痢などの排便障害、排便時の出血に関しては、昨今の高齢患者様の増加により、最初に念頭に置くべき器質的疾患として大腸癌があります。内視鏡検査で観察範囲に問題がなかった場合には、外科にて肛門疾患の診察を行います。稀ですが痔瘻癌を含む肛門管癌の場合には、直腸内での反転観察でも診察が困難な場合があり、直腸診に加えて肛門鏡による診察が有効です。これとは逆に若年者においては、クローン病などの炎症性腸疾患の場合に痔瘻を初発とすることがしばしばで、先ず外科にて痔瘻に対する治療を先行し、以降は内科的に全身的な治療を継続していくことになります。

コロナ禍による受診控えが終息し、検診などを契機に早期の胃癌や大腸癌が発見され、内視鏡的に切除される機会が増加しています。内視鏡的に完全に癌が切除され、垂直・水平断端ともに陰性の場合でも、腸管壁外の領域リンパ節に転移がある可能性が高いとみなされた場合には、リンパ節郭清を目的とした追加切除術を考慮する必要があります。しかし結腸を除くと、胃や直腸では追加切除による術後の影響は無視できないものであり、当院の患者様は元々併存疾患を有する高齢者の割合が比較的高いことから、術前に内科外科にて十分にカンファレンスを行い、その適応を決定しております。

当院消化器病センターでは様々な消化器疾患に関して最新の知見を考慮しながら、患者様に対してより良い治療をご提供できるよう、今後も努力して参ります。登録医の先生方におかれましては、患者様をご紹介いただけますよう宜しくお願い申し上げます。



# 《新規登録医のご紹介》

## あさぎり台整形外科 高田 宗知 先生

皆様こんにちは。

2024年8月に田上本町で整形外科クリニックを開業いたしました。2002年に金沢大学を卒業し、これまで北陸三県のさまざまな病院で勤務してきました。一般整形から重症外傷や感染など経験は豊富です。専門は足の外科、外傷ですが、頸椎、腰椎、肩、股、膝など整形外科にかかわるところはなんでも積極的に治療します。特に「痛みの出にくいからだ」を目指し、理学療法士によるリハビリテーションに力を入れています。海苔巻きのような黒い外壁と、正面が大きなガラス張りのモダンな建物です。ぜひ一度ご来院いただければと思います。地域全体が元気になれるよう貢献してまいります。よろしくお願いいたします。



あさぎり台整形外科 高田 宗知



住 所：〒920-1155  
石川県金沢市田上本町  
3丁目128番1  
T E L：076-204-9724  
診療科名：整形外科  
ホームページ：<https://asagiridai.com>

診療	月	火	水	木	金	土	日
9:15~ 12:30	●	●	●	-	●	●	-
13:45~ 17:15	●	●	●	-	●	●	-

休診日：木曜、日曜、祝祭日

※あさぎり台整形外科ホームページより引用：<https://asagiridai.com> (2024/11/25)

# 金沢駅前内科・糖尿病クリニック 小倉 慶雄 先生

この度、2024年9月に金沢市本町にあるポルテ金沢地下1階に「金沢駅前内科・糖尿病クリニック」を開院いたしました小倉慶雄と申します。

私は2009年に金沢医科大学を卒業した後、東京の杏林大学病院で研修・勤務をし、2014年から学生時代からの恩師である金沢医科大学糖尿病・内分泌内科学教室の古家大祐先生の下に戻り、糖尿病を中心に内科医師として、昼夜問わず臨床に研究と一生懸命働きました。金沢医科大学からの派遣という形で金沢市内の医院・クリニックにおいても勤務させていただいており、その時から地域医療を通して金沢市立病院には大変お世話になりました。糖尿病は、長く付き合わなければいけない病気ですが、患者様一人ひとりに色々な事が起こります。治療を途中で中止してしまう方や、精神的に落ち込んで治療がうまくいかない場合等、実際の病気とは違う問題を抱える方も数多くいらっしゃいます。

患者様との会話の中で、個々にあった治療方針と一緒に相談し、寄り添っていけるようなクリニックを目指しております。科学的根拠に基づいた安全で質の高い医療を行うことはもちろんですが、当院だけでは解決できない問題に直面した場合など、必要な時期に専門病院への紹介も行い、患者様に不都合が生じないように配慮してまいりたいと思います。

地域の皆様にとって、当院が少しでもお役に立つことが出来れば幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。



金沢駅前内科・糖尿病クリニック 小倉 慶雄

住所：〒920-0853

石川県金沢市本町

2丁目15番地1

ポルテ金沢地下1階

TEL：076-204-8085

診療科名：糖尿病、内科、  
甲状腺・内分泌内科、  
その他

ホームページ：<https://kanazawa-naika.jp>

時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
----	---	---	---	---	---	---	-----

10:00～13:00	—	●	●	●	●	●	—
-------------	---	---	---	---	---	---	---

14:30～18:30	—	●	●	●	●	—	—
-------------	---	---	---	---	---	---	---

休診日：月曜・土曜午後・  
日曜・祝日

※金沢駅前内科・糖尿病クリニックホームページより引用 <https://kanazawa-naika.jp>(2024/11/25)

# ホスピタリティアート・プロジェクト(HAP)

金沢市立病院では平成21年度より金沢美術工芸大学との連携のもと、医療環境におけるアートの潜在的な可能性を探る研究「ホスピタリティアート・プロジェクト(HAP)」に取り組んでおり、主な活動として、①光の回廊、②ホスピタル・ギャラリーの2つがあります。今年の光の回廊シリーズは「おいしい能登」と題し、能登地方の豊かな食の恵みを集合させた図案になっています。今年元日に発生した能登半島地震の被害に想いを馳せ、能登を応援するテーマを考えました。ホスピタル・ギャラリーについて



は、過去最多176点の作品で会場が満たされ、700名近くの来場者をお迎えすることができました。作品は能登をテーマとするものが多く、見附島や巖門など、地震によって壊れてしまった景色ですが、皆様の脳裏には深く刻まれているのだなと作品から感じとることができました。能登の早期復興を願う気持ちであふれる、そんな空間になったのではないかと思います。



## まちなかサロン

地域住民の健康寿命延伸を目的とし、医療・運動・栄養・創作の4分野を軸に展開しているまちなかサロンですが、今年の6月から再開し、10月末時点で計13回、延べ500名以上の方にご参加をいただきました。毎週必ず参加されている住民の方々とは顔なじみとなり、地域とのつながりを実感しております。これまで開催してきたまちなかサロンで特に印象的だった講座を2つご紹介したいと思います。ひとつは当院の腎臓・リウマチ科小林医師が担当した「腎臓」がテーマの回です。52名もの方にご参加

いただき、みなさんの関心の高さに驚かされました。また、「腎臓は治らない」という医師の言葉も印象的で、腎臓の「守り方」を医師よりお話ししました。「ロキソニン」が腎臓を悪くする可能性があることは事務担当の私も驚きでした。もう一つは当院の西川看護師の趣味である「折り紙」です。病棟には西川看護師の作品が飾られ患者さんから好評をいただいております。その腕前はまさに「おりがみつき」です。折り紙を通し参加者と密にコミュニケーションを図ることができ「楽しかった」とのお声もいただくことができました。今後もまちなかサロンを盛り上げていきたいと思っております。登録医の皆様や地域の医療従事者もぜひ講義を一つお願いできないでしょうか。お引き受けいただけるようでしたら、地域連携室までご連絡ください。

